

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0871000261		
法人名	有限会社ヘルスケアー下妻		
事業所名	ケアプラザうららグループホーム①		
所在地	下妻市下妻戊34-1		
自己評価作成日	2020年9月26日	評価結果市町村受理日	2021年8月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JiyosyoCd=0871000261-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人認知症ケア研究所
所在地	茨城県水戸市酒門町4637-2
訪問調査日	2021年6月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>当事業所では、家庭的な環境の中で、個人の生活リズムに合わせながら、安心した生活ができるように支援しております。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>コロナ禍で様々な制約がある中、利用者一人一人のリズムを大切に、個々に合わせたケアを全職員で共有し、安心のある生活が送れるよう務めている。代表・管理者・職員の信頼関係は厚く、お互いを思いやるチームワークが取れている。現在、地域との交流は中止となっているが、協力関係はできている。行政から新型コロナウイルス感染症に関する注意事項等の書面が届いているので、感染予防対策・必要物品の整備・コミュニケーションは出来ている。 *新型コロナウイルス感染予防の観点から、訪問調査は通常より時間を短縮し、簡潔に実施。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	安心・信頼・満足の理念を掲げている。毎日職員で唱和して確認しています。	『安心』『信頼』を得ることが利用者の『満足』に繋がると考え、日々の支援に努めている。理念を申し送り時に唱和、ミーティング等で再確認し、実践に繋がっている。年間目標を『言葉使いに気を付ける』と掲げ、利用者の性格に合わせた言葉かけを実施している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区のイベントに参加したり清掃活動に参加したり地域交流に努めている。自治会の行事に参加したりしています。	自治会に加入し、例年はイベント・清掃活動・夏祭り等に参加しているが、コロナ禍の現在は中止となっている。井戸水の浄化掃除が当番制で回ってくる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	学校などの体験ボランティアを受け入れたり町のイベントに参加したりして支援している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催し意見交換をしながらサービス向上に活かしている、地域の方々に情報発信出来るように努めていく。4月より市役所にて開催している。	今年の4月から、市役所に出向き、事業所と行政のメンバーで、事業所の状況・行事報告・市からのお知らせ等の内容で開催している。職員にはミーティングで報告し共有している。家族には支払い時・面会時に報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入居状況報告や運営推進会議への参加等頂き協力関係が出来ている。新型コロナウイルスの対応を密にして行く。4月よりコロナ対応にて参加を休止している。	関係担当課(介護保険課・社会福祉課・社協・地域包括センター)と連絡を密にとり、協力関係を築いている。新型コロナウイルスの対応に力を入れている。小学生の社会見学や中学生の体験学習の受入れも休止となっている。県の協議会・市のケアマネ会も中止。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	すべてのスタッフが理解し明るい開放的なケアに取り組んでいる。ミーティングにて研修会を開いている。	身体拘束廃止マニュアルを作成し、ミーティングで研修会を実施している。グレーゾーンについての話し合いはその都度実施し、全職員で共有している。一時的に拘束となる場合は家族に説明し、同意を得て記録に残している。拘束が長期に渡る場合は、居室を常に職員の目が届く部屋に変更し、見守り支援を実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月1回のミーティングを利用し利用者様の尊厳を大切に言葉使い等も気を付ける様に話合っている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設でも高齢化に伴い必要性を感じ研修をして行きたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い理解が得られる様に対応している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の利用者様との談話の中から又ご家族の面会時に気軽に意見・要望等を伝えて頂き反映させている	利用者からは日々の会話の中から意見・要望(食事の希望が多い)を聞く。面会はアクリル板や窓越しで可能である。家族からは利用料支払い時に聞くことが多い。コロナ禍で事業所内の状態が見えて来ないが、安心してお任せしていますという声が多い。毎月、状況報告と写真を郵送している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティング等で意見交換をして反映させている	運営に関する報告は事前に受けている。現場での気づきはその場で検討している。ミーティングで意見交換をし、要望等もあげられる。備品の購入要望はリーダーから管理者に伝えられ、整備される。代表・管理者・職員は何でも言い合える関係なのでストレスや不満はないとの事。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が働きやすい環境を整備しやりがいのある職場作りを努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ミーティング等で勉強会を行ったり研修会に参加する機会を作っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県内の協議会等に参加し意見交換を行っている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回相談に時間をかけ対応している、不安を取り除ける様に話をしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回相談に時間をかけ対応している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネやスタッフとも話し合い必要としている支援を見極め対応している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昔の様子を話して頂いたり、料理方法を教えて頂いたり和気藹々の関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	状況報告など密に連絡を取り合い、施設でのイベント等に参加頂いたりして共に支えあう関係を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族を通じ友人と面会して頂いたり、外出の機会を作り支援している	要望があれば、電話・手紙・はがき・年賀状・暑中見舞いで馴染みの人との関係継続を支援する。家族や知人と外出する利用者がいたが、コロナ禍が収束するまではと、面会を遠慮している家族が多い。利用者同士が声を掛けあったり、お互いをカバーし合う良好な関係が出来ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個人個人の個性を把握し利用者様同士の声かけあいや支えあえる関係作りに努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も気軽に相談して頂いたり、来所して下さるように支援している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中から一人一人の利用者様の思いや希望の把握に努めている	集団生活の中で、それぞれが楽しみや家事などの役割を見出し、利用者が自身の存在を感じることができるよう配慮している。一日の流れは利用者のリズムに合わせた流れとなっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からお話して頂いたり本人様とのコミュニケーションの中からバックグラウンドを把握し日々のケアに努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェックやスタッフ間の申し送り等で状況を把握し全員が状況把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の意向や本人の希望を尊重して、スタッフでの話し合いの中から現状に即した介護計画を作成している	家族・利用者から意見や要望を聞き、フェイスシートとケアチェック表をもとにカンファレンスを実施して課題とケアのあり方について話し合い、プランを作成している。また、短期目標達成に向けた実施内容を記録し、モニタリング・評価に繋げ、現状に即したプランにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌や個別の経過記録を記入し全員が共有、把握し実践、介護計画の見直しに生かしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設のデイサービスを活かしての交流や遠足、外食の機会を作り対応している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	警察や消防への施設の存在報告や地域ボランティアへの参加		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	十分に話し合い、かかりつけ医への支援や信頼関係の構築に努めている	協力医療機関からの月2回の往診と週1回の訪看で体調管理に努めている。疑問や気づきは職場の看護師に相談し、アドバイスを受けることができるので心強い。かかりつけ医を受診する利用者には、現在、職員が処方薬をもらいに行く。往診受診記録シートに経過と医師からの指示、家族の報告内容を残している。訪看の記録はケース記録に残している。歯科往診は希望者が受診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	関わりの中で気づいた事を職場内の看護師に相談したりして対応している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院までの経過報告を初め情報交換をしながら病院との信頼関係の構築に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	スタッフ間でも日々の状態把握に努め、ご家族とも十分に話し合い対応する様に努めている。往診可能な先生の支援なども相談している。	契約時に『重度化した場合の対応に係る指針』を説明し、同意書を取り交わしている。重篤前に医師・家族・事業所で話し合い、今後の方針を決めて再度同意書を取り交わしている。希望が出た場合は医療連携をとりながら、チームで支援に取り組んでいる。訪看を利用する事で、職員の精神的な安心に繋がっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ミーティングの中での勉強会や救急救命の講習を受講したりしている	/	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立会いの避難訓練の実施や夜間を想定しての避難訓練等を実施している	水害時は垂直避難で3Fに避難。初期消火・夜間想定・緊急通報システム・避難経路確認・連絡網・利用者行動把握等を把握し利用者が安全に避難できる方法を全職員が身につけている。隣接施設に協力依頼をお願いし快諾を得ている。前回は自主訓練を実施し、消防署に報告をした。消防署からは慌てず避難するようと言われている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人を尊重しプライバシーを損ねない様に努めている	『個人情報利用目的』を明記し、個人情報保護に努めている。声掛けやケア提供時に利用者が不安にならないように、注意をはらっている。面会簿は職員が記入している。居室の除き窓は暖簾をかけ、プライバシーを損ねない配慮をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様から気軽に自分の思いを伝えて頂ける様にコミュニケーションを取り働きかけている	/	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人のライフスタイルを大切に出来る限り希望にそって支援している	/	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に散髪したり、積極的に自分で衣服など選べる様に支援している	/	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感のある食事や好みの料理などを工夫しながら自家栽培で採れた野菜などを利用し準備や調理など出来ることを共に行っている	献立は利用者と相談しながら、季節の食材を取り入れて提供している。利用者の状態に応じた形態で提供している。食事介助に行いながら、他の利用者の食欲・嚥下等に注意をしている。自家栽培でとれた野菜は新鮮で、利用者に好評である。下準備や配・下膳、食器拭き等を一緒に行っている。テイクアウトを利用することもある。外食は自粛している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取状況を把握し支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	健康状態に応じた方法で行っている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の状況を記録し、排泄パターンを把握し支援している	個人の排泄パターン・チェック表・表情・様子を把握し、習慣を活かしてトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。夜間、おむつ対応でも立位がとれる利用者には、昼間はリハパン・パットで対応し、トイレに誘導している。便秘解消には食材・運動・乳酸飲料・生活スタイル等で取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	規則的な生活を送り排便習慣が確立できるように支援する		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間を問わず入浴が楽しめる様に体制を整え支援している	基本的には週2回の入浴支援であるが、汚染・希望が出た場合は入浴可能である。季節のゆず湯は好評である。希望する利用者には同性介助で対応している。入浴への拒否にはケースバイケースで対応。皮膚感染予防対策は実施している。着替えの準備は利用者に聞きながら、主に職員が揃えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のライフスタイルを尊重し安心して休息睡眠できる様に努めている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ミーティングを利用し副作用や用法などを把握し状態観察をしながら支援している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	集団生活の中での楽しみや役割をみいだせるように支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の状態や希望を確認し外出の機会が取れる様に努めている	現在はコロナ禍で外出支援は自粛している。ベランダや中庭で日光浴をしたり、近場を散策して日差しや肌に受ける風から五感の刺激を受けている。数人ずつドライブを兼ねて花見に出かけた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金の所持したり使えるように支援している	原則的にはスタッフが管理しているが、希望に応じて使えるように支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話等いつでもやり取り出来る様に支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	どこでも休息出来る様な空間を作り生活感や季節感を取り入れた居心地の良い空間作りに努めている	利用者がベランダで草花の栽培を楽しんでいる。廊下にある複数の腰掛スペースでおしゃべりを楽しんでいる利用者の姿がある。ソファでのんびりテレビを見ている利用者もいた。利用者の顔写真やイベントの写真飾り、話題提供のツールとなっている。カーンコエ・アジサイを飾り、和やかな雰囲気を作られていた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下やリビング等自由に過ごせる空間作りに努めている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使用していた馴染みの物などを配置し居心地の良い空間作りに努めている	居室入り口には名前を掲示している。今まで使用していた衣装ケース・テレビ・テーブル等を安全面と動線に配慮し設置している。人形・作品・置物・塗り絵・家族の写真等を飾り、落ち着いた居室となっている。できる方には居室のモップかけをお願いするときもある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内の配置やトイレ、廊下等の手すりなど安全に出来る限り自立した生活が送れるように工夫している		

(別紙4(2))

事業所名 : ケアプラザうららグループホーム

目標達成計画

作成年月日 : 2021年8月6日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の皆様と交流をとり、事業所の活動を深めていく	地域活動に積極的に参加し、地域の一員として交流を深める	12ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。